

## 題：磯焼け対策の切り札となるか？早熟カジメ

水産職 春山 出穂

皆さんは海藻の「カジメ」をご存じですか？下の3枚の画像から、カジメだと思うものを選んでみてください。



図1



図2



図3

答えは『全てカジメ』が正解です！図1は配偶体（種のような状態）、図2は発芽したての幼葉、図3は成熟した大人のカジメです。

カジメなどの海藻が群生してできる藻場は、海の生き物たちの餌や隠れ家、産卵場所として重要ですが、近年では藻場の大半が失われてしまう「磯焼け」が各地で報告されています（図4）。磯焼けになるとアワビなどが減ってしまい、素潜り漁や刺網漁などを営む沿岸漁業者の漁獲量に深刻な影響を与えます。この対策として相模湾試験場では公益財団法人相模湾水産振興事業団より委託を受け、成熟が通常では1年半かかるところを半年しかかからない「早熟カジメ」を増やす研究を行っています。魚などに食べられてしまう前に種を放出するため通常のカジメより子孫を残す可能性が高く、磯焼け対策の切り札になるのではないかと考えています。



図4 真鶴沖の磯焼け過程

試験場でのカジメの育成は、陸上と海中の段階に分かれており、まずは陸上の実験室で種(配偶体)を育てるところから始まります(図1)。秋に種を塗った糸の上で発芽させたら(図2)、より大きく育てるために冬の冷たい海に移動させます(図5)。ここからは研究員だけでなく、ほうじょう船員皆さんの協力を得て、船外機船「はやかわ」でカジメの測定や、成長の邪魔をする付着物の除去などを行います(図6)。初夏には魚による食害から守る装置<sup>※1</sup>の中にカジメを移動させるのですが、その際にはスキューバ潜水が欠かせません(図7)。



図5 大きく育ったカジメ

図6 はやかわで養殖現場へ

図7 潜水でカジメを設置

大変手間のかかるカジメ育成ですが、試験1年目はうまく発芽しなかったり、付着物に覆われてカジメが弱ってしまったり、魚に食べられたりと、失敗も沢山経験しました。試行錯誤を経て今年6月、江之浦海域等で藻場の再生に取り組んでいる小田原藻場再生活動組織に株を提供し、遂に試験場の早熟カジメは磯焼け海域へのデビューを果たしました!(図8、9)。しかし喜んでばかりはいられません。丁度この原稿を書いている今は台風が立て続けに襲来しており、カジメ達が果たしてどの程度耐えられるのか、心配で夜も眠れません。始まったばかりの相模湾試験場の藻場再生への取組ですが、今後も七転び八起きの精神で、皆で知恵を絞って進めていけたらと思います。



図8 江之浦海域に設置された藻場礁



図9 カジメ提供時の様子

※1 : 装置の詳細は、2021年ほうじょうコラム [「相模湾試験場カジメ増殖大作戦」](#) をご覧ください。